



江東区
観光キャラクター
コトミちゃん

KOTO City in TOKYO

スポーツと人情が熱いまち 江東区

江東区勢要覧
KOTO CITY GUIDE

江東区勢要覧 KOTO CITY GUIDE

発行 江東区政策経営部広報広聴課
〒135-8383 東京都江東区東陽4-11-28
電話：03-3647-9111(代表)
FAX：03-5634-7538

INDEX

目次

04 特集

KOTO City in TOKYO

スポーツと人情が熱いまち 江東区

06 “身近”で“充実”。
恵まれたスポーツ環境。

08 今も残る、江戸の伝統と文化。

10 渋沢栄一と江東区をつながり

12 こうとう見どころガイド

13 深川エリア

14 城東エリア


15 湾岸エリア

16 江東区の将来像

18 江東いま・むかし

WELCOME! KOTO CITY

水辺と緑のまち。
伝統と未来のまち。
そして、スポーツと人情のまち。
いろいろな顔を持つまち、
江東区へようこそ。



江東区
KOTO CITY

- 面積 43.01km²
- 人口 525,952人
- 世帯数 276,477世帯

※令和4年1月1日現在

区民のちかい —江東区民憲章—

江東区は隅田川と荒川に囲まれ、東京湾に向かって発展してきたまちです。

わたしたちは先人の築いた伝統と文化を引きつぎ、震災や戦災などの教訓を生かして、新しいまちづくりをしています。

だれもが住みよい明るいまちを築くため、ここに区民のちかいを定めます。

- 1. 緑と水に恵まれて ゆたかな心を育てます
- 1. 世代を越えて支えあい 心のふれあい強めます
- 1. とともに考え学びあい 未来の文化をつくります
- 1. 働く誇りと喜びで 活気と笑顔をわかせます
- 1. 同じ地球に住む仲間 世界の人と話します

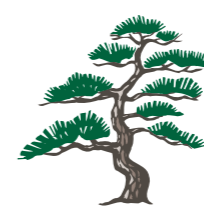
平成13年3月22日 江東区

区のプロフィール



区の花 サザンカ
昭和52年制定

秋から冬にかけて咲く数少ない花木の代表です。花には良い香りがあり、さまざまな形や色が楽しめます。



区の木 クロマツ
昭和52年制定

日本原産のマツ科の常緑高木。枝ぶりが見事で、アカマツに比べて葉も幹も大きいのが特徴です。古くから長寿の木といわれ、盆栽でも親しまれています。



ロゴマーク
平成28年制定

ハートの形は、スポーツの感動や鼓動、区民の暖かい人情(心)をあらわし、文字の形は、区のまちなみを構成する河川・道路・建物等をイメージしています。



区の紋章
昭和26年制定

区内各小・中学校を通じ、図工用教材として学童から募集した作品の中から採用し、一部を修正したものです。

特集

KOTO city in TOKYO

スポーツと人情が熱いまち 江東区

自転車の乗り方を教えてくれた、お父さん。

公園でキャッチボールをしてくれた、となりのお兄さん。

試合に負けた帰り道、声をかけてくれた、商店街のおばあちゃん。

江東区には、いつもスポーツと人情があります。

2021年。

東京で、最も多くの競技場が集中し、熱戦が繰り広げられた江東区。

国籍、年齢、障害・・・

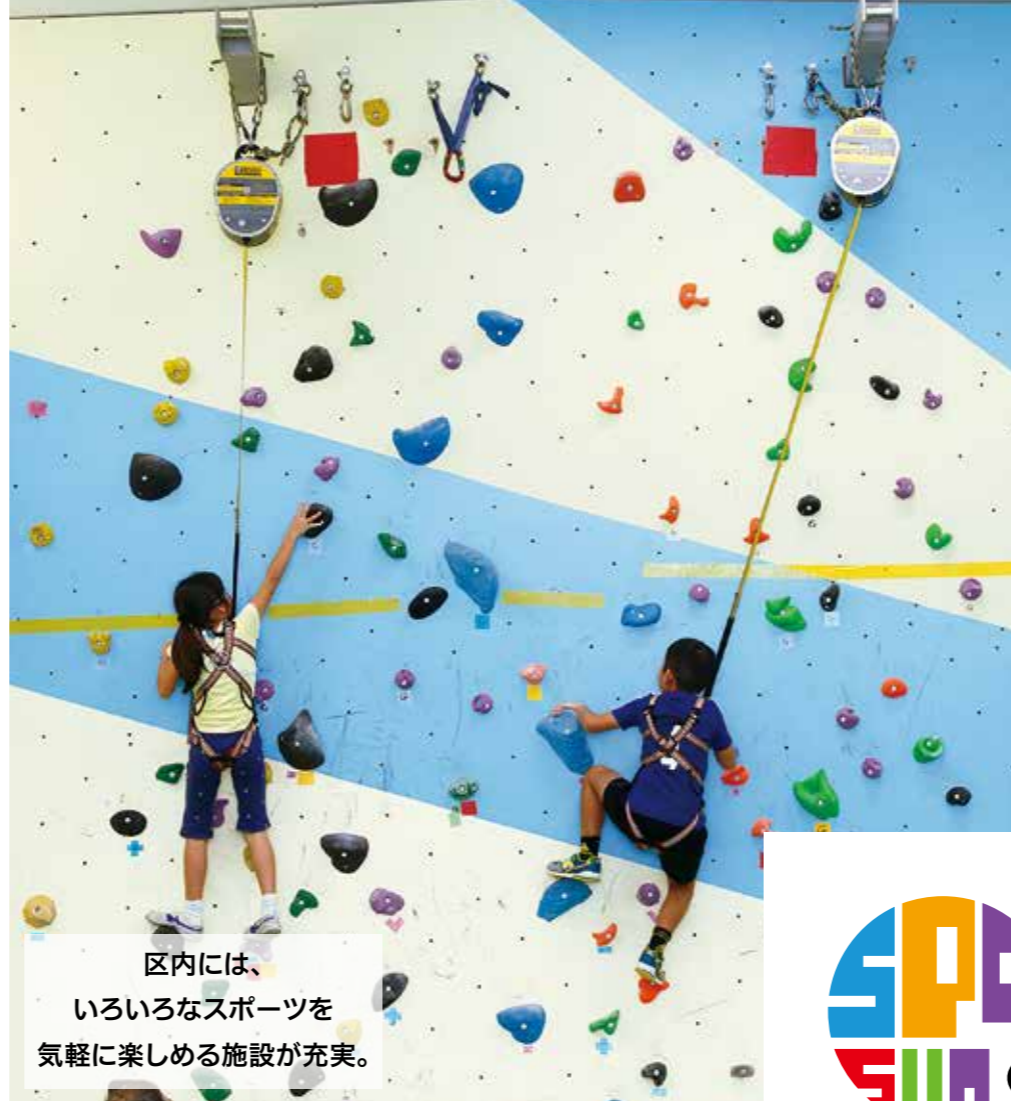
あらゆる違いを越える熱いサポート力で、

誰もがスポーツに熱くなれます。

SPORTS & SUPPORTS

KOTO City in TOKYO

スポーツと人情が熱いまち 江東区



区内には、
いろいろなスポーツを
気軽に楽しめる施設が充実。



東京2020オリンピック・パラリンピックでは、
江東区がたくさんの熱戦の舞台に。



新しく引っ越してきた人も、
すぐに地域の人と仲良しに。



江戸の文化や伝統を
受け継いでいるのも、江東区の魅力。

多彩なスポーツを楽しめる♪



深川スポーツセンター

トレーニング室や大体育室、武道場があり、さまざまなスポーツ教室も開催される区の施設。東京2020オリンピックで追加種目として実施されたボルダリング(スポーツクライミング)も楽しめます。



豎川河川敷公園

水辺の立地を活かし、カヌー・カヤック場を整備した区立公園。ほかにも、フットサルや水上アスレチック、パターゴルフ、キャッチボールなどが行える多彩なスポーツ施設を備えています。高架下にあるため、雨天でも利用が可能です。



夢の島陸上競技場

トラック、フィールド、観客席を備え、陸上競技大会だけでなくサッカーやラグビーの試合も開催されます。大会や試合がない日は一般開放されています。



新砂運動場

2017年に完成したフルコートの人工芝サッカー場は、ナイター照明のほか、夏場の練習や試合でも快適にプレーできるミスト冷却システムも備えています。そのほか、庭球場やターゲットボードゴルフ場があります。

大人も子どもも
楽しくスポーツ♪



オリンピック・パラリンピック レガシーの継承

東京2020オリンピック・パラリンピックは、人々に記憶や感動など、さまざまなレガシーを残しました。
江東区では、オリンピック・パラリンピックの施設を有効に活用することにも、スポーツを通じた区民の健康づくりの促進や、子どもたちの体力向上などをレガシーとして未来につないでいきます。
また、江東区出身の堀米雄斗選手が初代メダリストに輝き、関心の高まっているスケートボード。区は夢の島総合運動場にスケートボードパークを整備し、令和4年11月から利用を開始する予定です。



“身近”で“充実”。 恵まれた スポーツ環境。

Convenient and Abundant: Koto City's Rich Sporting Environment

Another attraction of Koto City is that everyone, from children to the elderly, can easily enjoy sports. All kinds of sporting facilities are available, including not only soccer and baseball, but also a variety of other sports such as canoeing and kayaking. By taking advantage of the rich waterfront environment, everyone can find a sport that matches their stage in life and that they can enjoy. Additionally, distinctive club activities based at middle schools allow children to try sports with few participants. These clubs actively pursue sailing, canoeing, girls' soccer and other sports that are unusual in Japan. In this way, the city supports giving children the option of getting involved in their preferred sports.

スポーツで、心も身体も健やかに。
いろんなスポーツを楽しめる環境が、
江東区には整っています。

「競技人口の少ないスポーツも、 特色ある部活動」で

「こどもからお年寄りまで、
いつでも気軽にスポーツを、
スポーツがとても身近で、誰もが
気軽に楽しめる「恵まれたスポーツ
環境」も江東区の魅力です。東京
2020オリンピック・パラリンピッ
クをきっかけに、そのスポーツ環境が
ますます充実しています。
サッカーや野球、テニス、ランニン
グなどはもちろん、豊かな水辺環境を
活かしてカヌーやカヤックなどが楽
しめるのも江東区ならではのスポ
ーツ施設が充実しているだけでな
く、話題の民間スポーツ施設も誕生し
ており、こどもからお年寄りまで、自
分のライフスタイルや好みに合わせ
たスポーツを楽しめます。

区立中学校では、「特色あ
る部活動」を行っています。



江東区には6つの体育館のほか、競技場、
運動場など、さまざまなスポーツ施設が
あります。



部活動としては全国的にも珍しい「女子サッ
カー部」。高い目標を持って活動しています。



水辺環境を活かした「セーリング部」。小学校
5年生からの5年間で高い技術を身に付けます。

拠点校に区内の小・中学生が学校の垣
根を越えて集まり、競技人口の少ない
スポーツでも部活動として取り組ん
でいます。
現在は「セーリング部」「カヌー部」
「女子サッカー部」が活動しており、ス
ポーツ以外では「俳句部」もあります。
区の地理的資源や文化的資源を活か
しながら、こどもたちが自分の好きな
スポーツに取り組みるように、江東区
では部活動をサポートしています。

脈々と受け継がれてきた“江戸の技”



民俗芸能

速いテンポの演奏に合わせ、角材を乗りこなして演技する「木場の角乗」や、農村の祭囃子として伝わる「砂村囃子」など、江戸時代に誕生した民俗芸能が今も受け継がれています。こうした技は「新春民俗芸能の集い」で見ることができます。



伝統工芸

ガラスに華やかな細工をする「江戸切子」。木材を組み合わせて、さまざまな模様を表現する「組子細工」。江東区には、今もなお古からの伝統技術を受け継ぐ職人がいます。匠たちが生み出す工芸品は、区内の「工匠館」「匠の逸品処」で展示されています。

当時のままに体感できる“江戸文化”



江戸時代の暮らしを知る【深川江戸資料館】

まるで江戸時代にタイムスリップしたかのよう！江戸のまち並みが実物大で再現され、照明や音によって一日の移り変わりが演出されています。生活の道具などにも触れることができ、江戸の暮らしを臨場感たっぷりに“体感”できます。



昔ながらの和船に乗る【横十間川親水公園】

昭和30年頃まで和船が運河を行き来していた江東区では、和船操船の伝統技術の継承を目的とした「和船友の会」が活動しています。現在のポートなどに比べるとのんびりと進む和船は江戸情緒満点。横十間川親水公園で乗船体験を開催しており、希望すれば自分でこいでみることもできます。

区内各地に残る、歴史と活気ある商店街

江東区には人情味あふれる商店街が数多く残っています。例えば、670mにもおよぶ通りに約180もの店が軒を連ねる砂町銀座商店街。昔ながらの個人店が多く、商店街は活気に満ちています。コロッケなどの揚げ物やおでん、焼き鳥などを買ってその場で食べられるので、食べ歩きしながら散歩することもできる商店街です。



先人たちが築いた文化を受け継いでいく

江戸の長い歴史が育んだ技術や芸能。先人たちが残した貴重な文化を、私たちはしっかりと受け継ぎ、後世に残していく必要があります。

江東区では、さまざまな江戸の技術や文化を体験することができます。ほかではなかなか見ることのできない民俗芸能も、区内のイベントなどで毎年披露されています。そして、江戸のまちでの暮らしや、江東区の川や運河を行き交った和船の様子も知ることができます。ぜひ江東区を訪れて、江戸の人々の生活に思いをはせてみてください。



深川八幡祭り (富岡八幡宮例大祭)

江戸三大祭りとして、寛永19年(1642年)から続く祭礼。威勢のいい掛け声とともに華やかな神輿が深川のまちを練り歩きます。沿道の人々から清めの水が浴びせられることから「水かけ祭り」ともいわれ、3年に1度の本祭りでは50数基の大人神輿が勢揃いし、連合渡御が行われるさまは圧巻です。

今も残る、江戸の伝統と文化。

KOTO City in TOKYO 02
スポーツと人情が熱いまち 江東区

民俗芸能、お祭り、そして人情。江東区のおちこちで、“江戸”を感じることができます。

Edo Period Traditions and Culture, Still Remaining in Koto City

The Edo period fostered many crafts and entertainment arts in its long history. We must steadfastly continue to maintain the cultural treasures that our predecessors left for us, and pass them on to future generations. You can experience a variety of Edo period crafts and culture in Koto City. Every year, traditional folk crafts and

entertainment that cannot be seen anywhere else are presented at events within the City. You can also learn about life in an Edo town and the Japanese-style ships that traveled on the rivers and canals of Koto City. We hope you will visit Koto City and be inspired to envision the lives of the people of old Edo.



ますます目が離せない 渋沢栄一

渋沢栄一は、2024年に新一万円札の肖像画に起用されるなど大きな話題を呼んでいます。また、明治から昭和にかけて栄一とその家族が暮らした旧渋沢家住宅は、深川から三田を経て青森県六戸町に移築されていましたが、邸宅の建築を手掛けた、名工二代清水喜助に連なる、清水建設株式会社に受け継がれ、2023年に江東区潮見の同社敷地内に移築が予定されています。そのほかにも区内には栄一の功績とその足跡が多く残されています。

旧深川区の区会議員・議長、
深川区教育会会長に就任

栄一と江東区の関係

転居した後も江東区と縁が切れたわけではありません。明治22年(1889年)には旧深川区の区会議員に当選し、区会議員に就任しました。また、旧深川区の教育向上を目的に設立された「深川区教育会」では会長に就任しています。区には教育会での演説記録が残されており、「教育はただ知識を与えるというばかりでなく、責任を重んずることが第一」と説き、「教育は教場の中において成長するものでなく、家庭というものが教育について大なる責任を持つ」という持論を述べています。深川区会議員時代



渋沢栄一と江東区をつながり

日本近代史に大きな足跡を残し、「日本資本主義の父」といわれる渋沢栄一は、明治9年(1876年)から12年間、深川福住町(現・江東区永代2-37)に居を構えていました。民間人としてさまざまな企業を設立していく中、旧深川区の区会議員・議長や深川区教育会会長を務めるなど江東区との深いつながりがありました。

実業家としての第一歩を踏み出し、近代日本の礎を築いた場所「江東区」と「渋沢栄一」のつながりをご紹介します。

約500の企業、約600の社会事業を育成

日本資本主義の父

渋沢栄一とは



渋沢栄一 像 渋沢史料館所蔵

渋沢栄一は天保11年(1840年)2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島村(現・埼玉県深谷市血洗島)に生まれました。明治2年(1869年)、明治政府から出仕を命じられ、民部省・大蔵省に勤務し、日本の近代化に必要な制度の導入を手がけました。明治6年(1873年)に大蔵省を退官し、以後、実業界での仕事や社会・公共事業に邁進していきます。論語の教えを基盤にした経済活動、さらに公益性を重んじる精神で約500の企業、約600の社会事業を育成しました。

転居後も本籍地は深川区福住町

栄一、江東区に居を構える

明治9年(1876年)4月、栄一は深川福住町(現・永代2-37)に土地と家作を購入し、同8月に転居しました。当時の深川は、多くの水路や堀割が設けられ、物資の運搬や荷揚げに便利で、商家の蔵や木場などがあり、物流や物資の集積地として栄えていました。また、深川は商業の中心地である日本橋に近いので、栄一にとっては便利な場所でした。栄一は明治21年(1888年)に、日本橋区兜町へ転居しますが、晩年まで本籍地を深川区福住町にしており、深川に対して特別な思いがあったのかもしれませんが。

渋沢栄一 略年譜

和暦	西暦	年齢	月	内容
天保11	1840	0	2	13日、武蔵国榛沢郡血洗島村(現・埼玉県深谷市血洗島)に生まれる。渋沢家は代々の農家で、畑作、養蚕、藍玉製造販売などを行っていた。
元治元	1864	24	2	一橋慶喜に仕える。
慶応2	1866	26	12	14代将軍家茂の死去に伴い、一橋慶喜が将軍に就任。栄一は幕臣となる。
慶応3	1867	27	1	徳川昭武(慶喜の弟)に従い、パリ万博使節団の一員としてフランスへ渡る。
明治2	1869	29	1	静岡藩に商法会所を設立。頭取となり、実質的に事業を取り仕切る。
			11	明治政府に出仕。
			5	大蔵省を退官。
明治6	1873	33	6	第一国立銀行(同29年に第一銀行。現・みずほ銀行)開業。栄一は総監役に就任。
			5	養育院事務長に就任(同12年、院長に改称し、終生務める)。
明治9	1876	36	8	26日、深川福住町(現・永代2-37)へ転居する。
明治11	1878	37	11	深川福住町に「表座敷」が落成。
明治15	1882	42	7	28日、深川に倉庫会社を設立(同19年、解散)。
明治17	1884	44	7	浅野総一郎との出資により、匿名組合浅野工場を発足(現・太平洋セメント株式会社)。
明治19	1886	46	4	深川福住町の住宅に寄寓する書生らを集め、竜門社を組織し、『竜門雑誌』を発行する。
明治20	1887	47	2	高峰譲吉に協力して、東京人造肥料会社を設立(現・日産化学株式会社)。
明治21	1888	48	12	6日、日本橋区兜町(現・中央区日本橋兜町)へ転居する。以後、深川福住町の住宅は長男篤二の住まいとなる。
明治22	1889	49	11	深川区会議員に当選し、区会議員を務める。
明治24	1891	51		深川区の学務委員に選出される。
明治30	1897	57	3	滋澤倉庫部を設立(現・滋澤倉庫株式会社)。
明治35	1902	62	12	深川区教育会の会長に就任する。
明治37	1904	64	10	深川区会議員および区会議員の職を辞し、区会より感謝状を贈られる。
明治41	1908	68	9	深川福住町の住宅を芝区三田綱町(現・港区三田2)へ移築。
明治42	1909	69	6	多くの企業および諸団体の役職を辞任。
大正5	1916	76	7	第一銀行頭取を辞任し、実業界から引退。
			5	楽翁公遺徳顕彰会が設立され、会長に就任する。
昭和4	1929	89	6	深川区霊巖寺において楽翁公百年忌墓前祭が行われ、挨拶を行う。
			6	清澄庭園大正記念館で開催された楽翁公記念講演会に出席する。
昭和6	1931	91	11	11日、死去。

深川在住
旧渋沢家住宅 深川福住町時代

区内の渋沢栄一ゆかりの場所一覧

16 化学肥料創業記念碑(東京人造肥料会社跡地)



25 園女歌仙桜之碑 ※渋沢栄一が書いた題字が陽刻されています



- 1 渋沢栄一宅跡
- 2 福住稻荷神社
- 3 滋澤倉庫部
- 4 第一国立銀行深川支店
- 5 第二国立銀行深川支店
- 6 渋沢商店
- 7 桜組
- 8 伊勢勝白煉瓦製造所
- 9 浅野工場
- 10 松平定信墓
- 11 帝国商業銀行深川支店
- 12 旭焼組合
- 13 東京印刷(株)深川分社
- 14 東京製綱会社深川分工場
- 15 東京府瓦斯局
- 16 東京人造肥料会社
- 17 (株)大島製鋼所
- 18 日本化学工業(株)
- 19 抄紙会社亀戸工場
- 20 東京運河土地(株)
- 21 大日本製糖(株)
- 22 汽車製造合資会社
- 23 渋沢家洲崎養魚場
- 24 深川電燈会社
- 25 園女歌仙桜之碑
- 26 明治州七八年役戦死者忠魂碑
- 27 旧渋沢家住宅移築予定地

※●は現存または、現地に石碑・説明板等が設置

深川エリア

Fukagawa Area

江戸の雰囲気を残しながら、アートとカフェのまちに

江戸時代に開拓され、庶民が数多く移り住んだことで江戸文化の花を咲かせた深川エリア。現在でも下町情緒が強く残り、江戸の風情や下町人情を感じることができます。エリア内には富岡八幡宮をはじめとした歴史的名所もたくさん。また、東京都現代美術館や人気ギャラリーが集まるアートのまちでもあり、近年は話題のカフェが続々と誕生しているまちでもあります。



清澄庭園
Kiyosumi Garden

江戸の大木屋敷に用いられた「回遊式林泉庭園」の近代的な完成形ともいわれ、昭和54年(1979年)には東京都の名勝第1号に指定されました。広大な池の周りを島々が囲み、随所に樹木や名石が配置された庭園では、四季を通じてさまざまな美観を楽しめます。



深川不動堂
Fukagawa Fudodo

千葉県成田市にある成田山新勝寺の東京別院。平成24年(2012年)に完成した新本堂は、壁一面に不動明王のご真言があらわれています。火を焚いて祈る護摩祈祷への参拝や、写経・写仏体験に多くの人が訪れます。



富岡八幡宮
Tomioka-hachimangu Shrine

寛永4年(1627年)に創建され、「深川の八幡様」と親しまれてきた大社。「江戸最大の八幡様」といわれ、江戸時代から広く信仰を集めてきました。現在でも毎月1日、15日、28日には縁日が開催され、多くの人でにぎわいます。



芭蕉記念館
Basho Museum

松尾芭蕉は深川の草庵から旅に出て、「おくのほそ道」や数々の名句を残しました。芭蕉記念館では松尾芭蕉に関連した資料を収集・展示。徒歩3分のところには「芭蕉庵史跡展望庭園」もあります。

水辺の構造美を楽しめる、隅田川に架かる橋

河川や運河が縦横に走る江東区には、多くの橋があります。中でも隅田川に架かる橋は、その歴史と姿の美しさから注目を集めています。男性的で重量感があり、赤褐色土たちが渡ったことでも知られる「永代橋」。ドイツ・ケルンの吊橋をモデルに、女性的で優美な曲線を描く「清洲橋」。オレンジ色の支柱がスマートな「新大橋」。それぞれが個性的な輝きを放ち、水辺の景観を彩っています。



City of Art and Cafés that Keeps the Edo Atmosphere

The Fukagawa area started developing during the Edo period, when many townspeople moved into the area and Edo culture blossomed. Even now it retains a strong flavor of the old working-class neighborhoods, and you can feel the Edo charm and the warmth of the old days. Historically famous places, such as Tomioka-hachimangu Shrine, can be found in this area. Additionally, it is an arts town featuring the Museum of Contemporary Art Tokyo and a concentration of popular galleries, as well as a café town with many new shops having opened up in recent years.

異なる表情を持つ3つのエリア

さまざまな文化や魅力を併せ持つ江東区は、大きく3つのエリアに分けることができます。「見どころガイド」では、それぞれのエリアの特徴とともに、必見スポットをご紹介します。



Koto City's 3 Areas, Each with a Different Face

Koto City can be broadly separated into 3 areas, with culture and charms aplenty. Edo culture still remains in the Fukagawa area, which is also popular for its art and cafés. The Joto area is where you can stroll along leisurely while enjoying an abundance of sights such as shrines, shopping areas and nature. Along the bayside, new attractions are constantly available, and its futuristic atmosphere has made it an international tourist spot. In this guidebook, we introduce the characteristics of each of these areas along with the must-see places.

こうとう 見どころ ガイド



神社や商店街など見どころ満載 城東エリア

Joto Area >> P.14

未来的な雰囲気が漂う 湾岸エリア

Wangan Area >> P.15

主要駅からのアクセス

東京	徒歩 (8分)	大手町 (3駅 5分)	東京メトロ東西線	門前仲町
	JR山手線 (2駅 3分)	秋葉原 (4駅 8分)	JR総武線	亀戸
	JR山手線 (2駅 4分)	新橋 (9駅 21分)	ゆりかもめ	青海
新宿	都営新宿線 急行 (4駅 13分)		都営新宿線	森下
	都営新宿線 (15駅 26分)		都営新宿線	東大島
	JR埼京線 (3駅 11分)	大崎 (4駅 11分)	りんかい線	東京テレポート

区内の移動に便利! コミュニティサイクル



地域内のサイクルポートで自転車の貸出・返却ができます。令和4年3月1日現在151か所のポートがあり、区内全域にエリアを拡大中。観光やビジネスにも大変便利です。

湾岸 エリア

Wangan Area

注目スポットが目白押し!日本有数の観光都市に

目覚ましい発展を遂げ、未来的な雰囲気を感ずることができます。こどもから大人までが楽しめるスポットが目白押しで、さまざまな過ごし方ができる都内有数の観光エリア。東京2020オリンピック・パラリンピックが行われた競技会場も数多くあり、ますますの発展が見込まれています。



**ダイバーシティ
東京 プラザ**
DiverCity
Tokyo Plaza

「劇場型都市空間」をコンセプトにした、多様性と話題性にあふれた新感覚の施設。ショッピングからエンターテインメント、食事などのさまざまな体験ができ、国内外の一流ブランドやレストランが集まっています。



**豊洲
ぐるり公園**
Toyosu
Gururi Park

豊洲ふ頭をぐるりと囲むように整備されており、開放感のある園内からは、湾岸の景観を楽しめます。また、夜にはライトアップされたレインボーブリッジや晴海ふ頭を眺めることができ、絶好の夜景スポットとなっています。



**キッズニア
東京**
KidZania Tokyo

3~15歳のこどもを対象とした職業・社会体験施設。警察官や大工、ビューティー・コンサルタントなど約100種類ものアクティビティがあり、仕事体験すると専用通貨「キッソ」で給料がもらえ、施設内での預金や買い物に使えます。英語での体験も実施しています。



**東京
ビッグサイト**
Tokyo Big Sight

日本最大級の国際展示場。羽田空港から空港バス等で約25分、東京・新橋・新宿駅等からのアクセスも非常に便利です。展示会や見本市が数多く開催され、連日国内外からの来場者で賑わいを見せています。

豊洲市場が開場

平成30年(2018年)10月、豊洲市場が開場しました。豊洲市場は、①閉鎖型施設で食の安全・安心を確保②車や荷物がスムーズに流れる効率的な物流を実現③産地や顧客、消費者のさまざまなニーズに対応④自然エネルギーの活用や屋上緑化など省エネや環境への配慮など、さまざまな魅力を持つ先進的な施設です。



To become one of Japan's leading tourist cities There are many spots to watch!

This is a wonderful, rapidly-developing area where you can experience a futuristic atmosphere. It is packed full of attractions that can be enjoyed by children and adults alike, and is one of the most prominent areas in Tokyo where there are so many ways to pass the time. Many venues for the Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 will be located here, and we expect much more development in the future.

城東 エリア

Joto Area

ゆったり散策しながら、歴史や自然を体感できるまち

「仙台堀川公園」をはじめ、旧中川沿いの遊歩道など、散策にぴったりのスポットが盛りだくさん。学問やスポーツ振興の神様を祀る神社でお参りしたり、川辺でお茶をしたり、レトロな雰囲気の商店街でお買い物をしたり、のんびりと充実した時間を過ごせます。



亀戸天神社
Kameido Tenjinsha
Shrine

学問の神様である菅原道真公を祀り、受験生をはじめとした多くの参拝客が訪れる「亀戸の天神さま」。江戸時代から藤の名所として知られ、数々の浮世絵に描かれてきました。菊まつり、梅まつりも行われています。



仙台堀川公園
Sendaiborigawa Park

3.7kmもの距離を誇る都内最大級の親水公園。「区民の森」をテーマにし、ふれあいの森、果実の森、親子の森などの7つの森があります。豊かな自然に触れることができ、川遊びができる施設も整備されています。



**中川船番所
資料館**
Nakagawa Funabansho
Museum

東北や北関東から江戸への水運の大動脈だった小名木川。その東端に設けられた船番所の一部をジオラマで再現しています。また、水運の歴史や郷土の歴史に関する資料を展示し、イベントやワークショップ、講座なども随時開催。



**亀戸香取
勝運商店街**
Kameido Katori Kachiun
Shopping Arcade

武運やスポーツの必勝祈願にご利益のある香取神社の参道に商店が並び、区内で最も古い商店街。「昭和30年代」をキーワードとしたレトロな雰囲気が漂います。

水彩都市ならではの 水辺と親しむスポットも

かつて江戸への水運の大動脈として栄えた小名木川と旧中川との合流地点に誕生した水辺のにぎわい拠点「旧中川・川の駅」。軽食や足湯を楽しめる「にぎわい施設」が整備され、水陸両用バスが川に飛び込む様子も間近で眺めることができます。また、こどもカヌー大会が毎年開催されるなど、「水彩都市・江東」を象徴するスポットとなっています。



Experience History and Nature, While Taking a Leisurely Stroll

This area is full of spots that are perfect for strolling, from Sendaiborigawa Park to the promenades along the Old Nakagawa River. You can pass time leisurely here, visiting shrines where gods of academia and sports are enshrined, enjoying tea along the riverbank, or exploring the retro shopping streets.

区民の力で築く 元気に輝くまち

- 区内の商工業が発展し、地域経済が活性化しています。
- 誰もが持てる能力を発揮しながら、コミュニティ・生涯学習・スポーツ活動に参加できる豊かな地域社会が形成されています。
- 誰もが地域の歴史と文化に対する理解と誇りを持つとともに、多くの人が江東区を訪れています。



ともに支えあい、健康に 生き生きと暮らせるまち

- 誰もがライフステージやライフスタイルに応じた健康づくりに取り組んでいます。
- 高齢者、障害者をはじめ、誰もが地域で支えあいながら、生きがいを持って社会に参加しています。



住みよさを実感できる 世界に誇れるまち

- 南北交通をはじめとする公共交通網の充実や都市基盤の整備により、誰もが快適に暮らせるまちが実現しています。
- 災害に強く、犯罪や交通事故のない地域社会の実現により、誰もが安全で安心して住み続けることができます。



江東区の将来像

みんなでつくる 伝統、未来 水彩都市・江東

平成21年3月に策定した「江東区基本構想」では、区が目指す将来のまちの姿を定めています。



水と緑豊かな 地球環境にやさしいまち

- 身近に豊かな水辺と緑に親しむことができる空間が整備され、都心にいながらうおいあふれる美しいまちを実感できます。
- 誰もが地球環境保全の取り組みを行い、環境負荷の少ないまちづくりを実現しています。

未来を担う 子どもを育むまち

- 子どもを育てることに、喜びと生きがいを持てる社会になっています。
- 子どもたちが毎日楽しく学び、遊ぶ中で、こどもらしくのびのびと育ち、責任感を培うとともに、未来を担う力を養っています。
- 地域社会が一体となり、こどもの未来を育てています。





東京大空襲直後、一面の焼け野原となった江東区

昭和

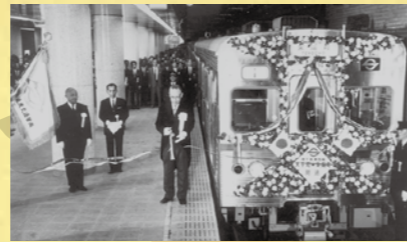
昭和22年、深川区・城東区が合併して江東区が誕生。戦争による荒廃や水害、ごみ公害に悩まされながらも、まちは人々の活気にあふれ、発展を続けました。昭和40年代に入ると、交通網の発展、公園整備、湾岸エリアの開発などが進み、まちの姿が大きく変わっていきました。



大島の工場群(昭和31年)



砂町銀座商店街(昭和39年)



地下鉄東西線が東陽町まで開通(昭和42年)

令和

令和元年、長年の課題だった中央防波堤埋立地の帰属問題が終結し、令和2年2月に新たな町「海の森」が誕生しました。令和3年には東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、さらなる飛躍を続けています。



空から見た中央防波堤埋立地

平成

平成に入り、さまざまな公共施設が完成。湾岸エリアの開発も進み、マンションの急増により、平成10年に人口が増加に転じて以後、増え続けています。平成30年10月には豊洲市場が開場しました。



東京ゲートブリッジ

江戸時代から400年!

江東いま・むかし

発展を続けるまち、江東区。

開発が始まった江戸中期から現在までのあゆみを振り返ってみましょう。



江戸

江東区はほとんどがアシの茂る低湿地で、亀戸の辺りにわずかな土地があるだけでした。しかし、徳川家康の江戸入府以降、埋め立てと開発が進み、江戸の食料を賄う農業地帯、全国から水運で運ばれてくる物資の倉庫・問屋街として発展を遂げました。また、風光明媚な景色や寺社仏閣などが市民から人気を集め、行楽地としても栄えました。



「江戸名所図会」深川木場

歌川広重によって描かれた名所江戸百景「小奈木川五本まつ」

明治・大正

明治に入ると近代化が進み、江東区でも紡績・食品などの軽工業の工場が建ち、明治から大正にかけては重化学工業が発展しました。こうした工業化に伴って多くの労働者が東京に流入したため、公営住宅の建設が進められました。



政府が日本で初めてセメントを製造し、後に浅野財閥へ払い下げられたセメント工場



多くの船が行き交う明治時代の小名木川

年	主な出来事
3年(2021年)	東京2020オリンピック・パラリンピック開催
2年(2020年)	中央防波堤埋立地の新町名を「海の森」に決定
令和元年(2019年)	中央防波堤埋立地の帰属が確定
30年(2018年)	豊洲市場開場
27年(2015年)	人口50万人突破
25年(2013年)	東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定
24年(2012年)	東京ゲートブリッジ開通
23年(2011年)	東日本大震災発生
18年(2006年)	ゆりかもめ(有明)・豊洲開通
15年(2003年)	半蔵門線(水天宮)・押上開通
12年(2000年)	大江戸線全線開通
10年(1998年)	新海浜分場の埋め立て開始
8年(1996年)	りんかい線(新木場)・東京テレビポート開通
7年(1995年)	ゆりかもめ(新橋)・有明開通
6年(1994年)	夢の島競技場オープン
平成元年(1989年)	第1回江東区民まつり開催
63年(1988年)	有楽町線(新富町)・新木場開通
58年(1983年)	第1回江東区民まつり開催
57年(1982年)	江東区文化センターオープン
56年(1981年)	第1回江東シーサイドマラソン大会開催
54年(1979年)	総合区民センターオープン
53年(1978年)	都営新宿線(若本町)・東大島開通
49年(1974年)	教育センターオープン
48年(1973年)	区役所が現在の場所(東陽4丁目)に移転
47年(1972年)	中央防波堤のこみ埋め立て開始
46年(1971年)	区内の都電廃止
44年(1969年)	「こみ戦争」宣言
42年(1967年)	東西線(東陽町)・西船橋開通
40年(1965年)	東西線(大手町)・東陽町開通
39年(1964年)	夢の島八工騒動
32年(1957年)	若洲のこみ埋め立て開始
32年(1957年)	夢の島のごみ埋め立て開始
24年(1949年)	東京オリンピック開催
22年(1947年)	深川区・城東区を合併して江東区誕生
昭和20年(1945年)	区内の被災者約15万4000人
13年(1924年)	清澄庭園を岩崎久彌が東京市へ寄付
大正12年(1923年)	関東大震災
42年(1909年)	深川公園内に開館
37年(1904年)	総武線亀戸駅開業
明治8年(1875年)	工部省深川工場で日本で初めてセメント製造開始
貞享元年(1684年)	富岡八幡宮境内で相撲興行が始まる(江戸大相撲の始まり)
延宝8年(1680年)	松尾芭蕉が深川芭蕉庵に移住
寛文2年(1662年)	亀戸天神社創立
寛永元年(1624年)	長盛法師が永代島に富岡八幡宮を祀る
慶長元年(1596年)	深川八郎右衛門が深川村を開発
天正18年(1590年)	江戸城に徳川家康が入城